若越郷土研究
7の6

一乗引越し寺社

―福井城下寺社資料―

松原信之

藩政時代武士・町人を含めた全人口およそ三万五千人程度の福井城下には実に百六拾か寺余の寺社が存在した。城下の各所に見られる甍は仏教王国と云われている越前国の首邑にふさわしいものがあつたであろう。しかも各地から城下に集中せしめられたものや、或いは各領主や藩の重臣又は富豪の町人等によつて創建されたもの等は各時代各宗派によつてそれぞれ特色を示して居り、これ等の各寺院の沿革を窮めることは各宗派の分布とその布教浸透の状況が知られるのみならず、町方記録の乏しい福井に於いては都市発展を解明するための鍵ともなるものである。こう云つた趣旨から特に藩政時代まで存在した寺社に限つて、知り得る限りの資料を集めこれを各類型に分類して集録して見た。

所でこれ等の記録は縁起的な点に至つては誇張作為的な面が歴然としているものもあり、又普通の寺伝沿革にも長年月に伝えられて来た間に沿革の飛躍的な結び付きや時代的矛盾などの見られるものもあり、これ等を正史に照し、同じ類型の寺院沿革とも比べて矛盾誤伝を除き、出来得る限り正しいものに改めた。

さて明治以後の沿革に就いては明治初年宗教法改正によつて提出せしめられたもの（寺院台帳）と昭和十五、六年頃に提出せしめられたもの（寺院明細帳）とがある。前者は既に現存せず、各寺院に残る控から僅かに窺えるのみであるが、後者は県庁や市役所にも残存し、又福井市史下巻にも集録されている。前者の寺院台帳は資料価値があり、その滅失は残念な事である。

藩政時代の記録になると松平文庫蔵の「越藩拾遺録」がある。内容から見て安永・天明・寛政間のものと考えられるが、願照寺や宗源寺が藩及び本山に提出した安永三年八月の由緒書が同寺に現存する所から、この書はこれを基にこの頃編集されたものと判明する。又文部省史料館にも「拾遺録」と同時期と思われる「御城下寺社号誌」があり、これによれば当時の百五拾四か寺社及び宗派、所在町名、山号・院号、それに本寺末寺の関係も知られこの方面での貴重な資料である。「越前国名蹟考」には「拾遺録」の記録を基に慶応年度の著者の聞繕いによつて寺社の沿革を記している。

藩政時代に於ける寺社の移転及び創廃寺は松平文庫蔵の各時代の城下絵図を比較することによつても知られ、特に貞享二年及び正徳三年の城下絵図作製の為予め書き上げられた「御城下絵図別記寺社」には各寺社の境内地の図面と共に御朱印地、地子地、町役地等の地種まで記されている。これによつて当時の城下内の地方地・町方地等法制史上の複雑な地種関係等も窺えて貴重であるばかりでなく、寺院によつては沿革の誤りが訂正される資料にもなる。即ち寺社地は、藩政初期から存在したもの及びそれ以後藩命などで創建又は移建せしめられた寺社に関しては無地子・無役地の拝領地であるが、これ以外の自発的に寺地を買求

めた寺院は境内悉く地子地又は町役地となる。結局は地方地（地子地）が城下内では町役地しか求められなかつたからである。

この他松平文庫蔵の「御家老中御用留抜集」（一～五）や「御用留抜書」及び「国事叢記」等にも当時の寺社関係の資料がある。本稿は以上の資料によつて、福井城下の寺社の沿革をまとめたものである。これらの寺社は次の七項目に分類できる。

一、古代中世に創建された寺社
一、安土・桃山時代に創建された寺社
一、一乗谷引越寺社
一、藩政以前一乗谷以外よりの引越寺社
一、藩政時代創建された寺社
一、結城・高田・吉江・松岡引越寺社
一、藩政時代その他引越寺社

今回はこの内、一乗谷引越寺社に関して集録した。

一乗谷は文明三年（一四七一）朝倉敏景の築城に創まり、天正元年（一五七三）滅亡までの百余年間朝倉五代の城下として栄えた所である。この一乗谷城下の範囲に就いては現在の一乗谷のみならず、その近郷をも含めた相当に広範囲な地域が想定されるが、ここでは一乗谷中の寺社に主体を置き、波著寺や法興寺など一乗谷外であつても通称一乗引越と称されているものはこれに含めた。

さて一乗の幽谷は古代仏教の適地であつたろうか、泰澄に結びつくと云う寺社もあり、天台密教の流れを汲む西山光照寺も平安末期には既に存在したと考えられる。鎌倉時代には浄土宗源智の布教もあつてこれに渕源する寺院には一乗寺・真照寺がある。しかし一乗谷の社寺の繁栄は敏景の築城以後のことであつた。まず西山光照寺は文明三年の再建以後一乗谷に多くの塔頭末寺を有して栄え、遅れて清源寺や岡保西光寺など長享延徳に亙る坂本真盛上人の布教による天台宗真盛派寺院を始め、領主朝倉氏の帰依によつて建立された安養寺（浄土宗）心月寺（曹洞宗）もあつた。武臣や庶民の信仰を集めた日蓮宗は現在知り得る限りでも七か寺に及び、いずれもその本山を異にしているから、日蓮宗各派競つて一乗谷を中心に教線を延ばそうとした事情が窺えるのである。

一方真宗寺院は既知の如く文明三年の蓮如北国下向に起因を有するものが多い。所が朝倉氏と蓮如との友好関係は四か年しか続かず、文明七年から始まる一向一揆は約一世紀近く興亡を操り返した。従つてこの様な敵対関係にある真宗寺院が朝倉氏治下の一乗谷に成立されるはずがない。現在知り得る限り一乗谷に起源を有すると称している真宗寺院には教重寺（西派）・正徳寺・昌蔵寺（松岡）の三か寺しかないが、これ等寺録及び過去帳等を綿密に検して見るといずれも不自然に一乗谷に起源を持とうとする偽装的な面の明瞭なものばかりであるため、従つてこの項目では取り扱わないことにした。

波著寺（真言宗）―元足羽山に在り（廃寺）

養老年中泰澄開基、一乗に勧請、天正年中長谷川藤五郎秀一北庄愛宕坂へ移す。〔拾遺録〕

朝倉始末記に「天文十七年（一五四八）三月二十二日申刻孝景公波著寺へ参詣有ケルガ下向ノ路次ニテ頓ニ逝去シ給ケリ」とあるが此頃の波著寺は勿論北庄愛宕坂ではない。寺跡は現在一乗谷外、旧酒生村成願寺区に存する。足羽郡誌後篇によれば「波著観音跡、（成願寺）桜谷垣内より山上約七八町の山腹にあり、本尊は十一面観音に

して足利時代には加賀の国の那谷寺此地にありしを、応仁の乱にて焼きこぼたれ、住僧は辛くも本尊を負うて彼地に逃れ再興せしなりと口碑に存す。其証として山上には本堂・経堂・鐘堂の跡あり。皆石垣を以て高く積みかさねたり。今の波著観音はもと高波山の麓にありて往古男大迹皇子越前の水利を治め給はざりし以前、此村の附近の如きは恰も湖水の如く、風波荒き時は此神社の階下まで打ちつけたりというにより今に波著の名あり。其後今の那谷寺の跡に移して祀りしものなりという。鳥居には波著寺と彫りつけあり。」

一乗寺　摂取山来迎院（浄土宗鎮西派京都智恩院末）―緑町

開基源智上人ハ小松内大臣重盛公孫、備中守師盛ノ子、母中納言家盛郷ノ子ナリ。建久六年十三才ニテ法然ノ弟子トナリ、二十七才ノ時（承元四年一二一〇）一乗ヘ来リ一宇ヲ建テ一乗寺ト号ス。天正九年北庄ヘ移リ〔拾遺録〕運正寺開基後満誉上人帰洛に付一乗寺満清和尚に運正寺を属せらる。又当寺に一国女の墓あり、是れは忠直郷の嬖妾にして忠直郷御発徒の節、一国女を乗物の内に刺殺して此寺の門に捨置たる故妾に葬りしと云、法名真如観月大姉と云〔名蹟考〕

一乗寺寺址は一乗谷浄教寺に在る妙法山一乗寺址か。一乗寺の北庄移転年代は「拾遺録」には天正九年とあり、「影響録」には「慶長年中当所へ移る」とある。真照寺の場合も天正年中、慶長年中とする説があるから、結局は天正九年北庄いづれかの場所に移り慶長年中松平氏の城北の新市街建設後現在の浪花下町の地に移つたものと思われる。一乗寺は今年更に緑町に移転した。

真照寺　光明山清行院（浄土宗鎮西派京都智恩院末）―元籏川上町に在り（現在運正寺に併合）

開基源智上人、建永元年（一二〇六）一乗谷に於て建立慶長年中当地に移れり〔明細帳〕

福井県史第一編に「浄土宗越前に於いては源智早く足羽郡一乗谷に来り」とある。一乗寺・真照寺は共に浄土宗鎮西派に属し開基も同じく源智であるが、浄土宗布教の道場を二か寺も同じ一乗谷に創めるとは考えられないから、彼が最初ここに創立した寺坊が一乗寺であつて、後に真照寺が一乗寺より分立したのではないかと考えられる。これを裏付ける資料として、真照寺由緒書に「当寺本末由緒之儀は、御城下引移り、中興開山全誉上人より五代目深誉上人迄は一乗寺の末寺に御座候処、深誉上人当寺より一乗寺に転被ゝ致、此代に京都智恩院の真末と相成候、開山之儀は宗祖円光大師（法然上人）の御弟子勢観坊源智上人に御座候云々」とあり、中興開山より五代目までが一乗寺末寺となつていること等、恐らく一乗谷で既に一乗寺より分立した様で真照寺開基年代が少々あいまいなのも当然のことである。現在一乗谷阿波賀に真正（照）寺址が存する

真照寺は戦災後運正寺に併合されて廃寺となつた。

法興寺　融国山（浄土宗西山禅林寺派）―小山谷町

開基は当時過去帳によれば「西谷浄音上人法興大和尚、流祖西山上人御弟子也、当寺往古開山上人也」とあり、明細帳には「建長年中（一二四九）の創立也」とある福井県史第一編に「浄土宗は建長年中証空門下の法興、府中にあり国内を布教し」とあるから当寺の濫觴は府中に於ける浄土宗布教の中心道場であつたものと見られる。

其後、一時荒廃したが、永正十四年（一五一七）に至つて（拾遺録には永正二年とあるが、誤記である。）融国正考上人によ

つて一乗谷外現在の田治島の地に再興された。当寺過去帳に「融国正考上人天帰大和尚、此上人ハ京西山粟生光明寺十六代之尊主也、時之帝之依レ請ニ於テ清涼殿ニ一阿弥陀経被レ講ラルゼ其時御帰依倍々深ク則紫衣一重被ル下置一然ルニ其砌ハ当寺甚破地ニ成ル有ルヲ右上人深ク悲ミ玉イ御下向有テ、後柏原院永正十四丑年上人六十四才之時於テ一乗ニ一草創御再建也、故ニ一乗開祖当上人也」とあり、この再興を裏付けるものとして当寺所蔵の御柏原天皇叡感勅請綸旨がある。いわゆる法興寺住持職の安緒状とも云うべきものである。

〔後柏原院叡感勅請綸旨〕

法興寺正孝上人御房右少尉頼継

仏陀寺事数年退転

歎思食之処近日再興之

懇志　叡感之余彼寺

住持職之事所　勅請也

弥令逐土木之成功可被

致仏法之興隆之由

天気所□也仍執達如件

永正十三年六月四日右小尉頼継

法興寺正孝上人御房

朝倉氏滅亡後、即ち燈空慶伝上人の代に北庄に移つたものである。天正六年（一五七八）十二月二十日付の柴田勝家の掟書に一乗町法興寺とあるから既に天正六年以前の移転である。

この柴田勝家掟書の外に天正十一年四月の丹羽長秀禁制状、慶長五年霜月十二日の保科正光掟書なども当寺に現存するが、いずれも、「越前若狭古文書選」や「福井市史」下巻に活字となつている。（但し福井市史下巻の先述の勝家掟書に一乗谷法興寺とあるのは勿論一乗町法興寺のミスプリントである。）この他未発表の当寺所蔵古文書は先の後柏原天皇の綸旨の外後奈良天皇の綸旨がある。

〔後奈良院勅願所御祈祷綸旨〕

着青衣可致天下

安全御祈祷者

天気如此執達如件

天文九年四月廿九日左少弁（花押）

法興寺慶伝上人御房

掃苔記その他に「移転当初は一乗町に在り、後寛永頃現地（三橋町）に移る」とあるが、寺基は北庄移転当初より移動していない。これは勝家その他の掟書に一乗町法興寺とありながら、藩政中期以降には三橋町法興寺となつたことからこの様に混同したものであろう。法興寺は元一乗谷外田治島村の三橋地籍にあり、従つて北庄移転後も三橋の法興寺と呼称し、何時とはなく一乗町地域の中、法興寺門前一帯が三橋町として分立したものである。昭和二十年の戦災後現地へ寺基を移す。

安養寺　相忍山（浄土宗西山禅林寺派）

―緑町

文明五年朝倉敏景一乗谷に於て建立、（寺址は東新町地籍に在り）円光大師六世の法孫顕要和尚を請じて開山となす。朝倉氏滅亡後九世の僧融隆北庄現今の地に引移る時に天正三年なり。当寺往古は檀林小本山の寺格にて、加賀越前両国派の触頭たり。

〔明細帳〕

清源寺　恢楽山一乗院（浄土宗鎮西派京都智恩院末）―大和下町

明細帳に「当寺は往古天台宗にして明応年中開山真盛上人一乗谷にて建立、其後天正年中当地に移り慶長年中量覚上人（慶長十年寂）の代に浄土宗に改宗す。」とある。所で一乗谷西新町に同じく開山を真盛上人とし、創立年代共に清源寺と同じである天台宗一乗院盛源寺が現存する。この事実は即ち往古一か寺であつたものが慶長年

中北庄清源寺が浄土宗に改宗したため旧址に再び天台宗の盛源寺を再建したことを意味する。往古の清源寺の寺址は現在の盛源寺から下方の田畑の所に存する。

寛文十三年九月四代光通により永寿院菩提として吉田郡経田村の内、高弐拾石寄附されたが〔松平文庫蔵、御朱印状控〕貞享三年召上げられ、代りに佐野主膳・永見志摩・多賀谷権太夫・牧野主殿与力上り屋布三橋高七石二斗支配仰付けられた。後この地域に町屋が建てられ三橋地方清源寺町となつたものである。〔拾遺録・城下絵図〕

光照寺　一乗院（天台律宗延暦寺末）―花月上町

当寺由緒書に云「開基及中興の由緒を討ぬるに桓武天皇の御宇大同年中伝教大師勅を奉じ日本国中に三ケ所の戒壇院を置かれ、一乗円頓戒を普く庶民に授与せらる。則当国足羽郡一乗谷に其一を置かれ、西山一乗院と号す。（三ケ所の戒壇院は近江国比叡山東塔戒壇院・伊予国等妙寺及び当国一乗院なり）

文明三年朝倉敏景公一乗谷に城を築くや当時の住職盛舜上人の戒徳高きを聞き帰依浅からず、祖先鳥羽豊後守将景公（法号光照寺殿）菩提の為一乗院を再建し、寺号を其法号に因みて西山光照寺と称し祖先の菩提を弔ひ、兼て武運長久を祈らしめたり。天正元年朝倉氏滅亡後修理料を失い堂塔腐朽頽廃せり。慶長十六年北庄現今の地に移る。」

当寺の開基は日本国内三か所の戒壇院の一つとして置かれたものが創まりだとしているが、史実に照合すれば明らかに大きな誤伝である。

戒壇は当時大乗円頓戒を授けるためのもので僧になるためにはここで受戒しなければならなかつた。平安初期にはこの戒壇は南都（奈良）にしか無く、最澄はこれを延暦寺にまで設立しようと、しばしば朝廷に請願したがゆるされず、最澄の死後、弘仁十三年（八二二）に至つては始めて設立認可された。その後鎌倉末期に後醍醐天皇により元応寺戒壇、法勝寺戒壇が設立され、その後更に地方では鎌倉円頓宝戒寺、加賀白山薬師寺、伊予等妙寺、筑紫鎮弘寺にそれぞれ戒壇院が設けられ、これを遠国四戒壇と称された。この様に天台宗として重要な戒壇院が越前の当時草深い一乗谷に設立されるはずがない。

天台宗は長享・延徳年間一乗谷三代城主貞景の代に二度に亙つて府中から一乗谷一帯に布教に来た真盛上人によつて新しく真盛派が弘められた。府中引接寺・岡荘西光寺などこの機会に創立された寺院が多く、一乗谷でも延暦寺真末の光照寺及びその末寺以外は清源寺・西念寺・極楽寺など天台宗真盛派に属する寺院ばかりである。

ところで慶長北庄古図には西山智善院宗光照寺とあるが、これは平安末期に起つた台密（天台宗密教）十三派の一つ智泉派の事で山岳宗教的要素の残つたものであつた。従つて光照寺の開創年代も恐らく智泉派の起つた平安末期前後と考えられ、寿永元年（一一八二）の足引観音の伝承などもこれを裏付けるものである。

さて光照寺の中興開基、鳥羽豊後守将景は家景（教景）の弟で、宝徳二年（一四四五）家景の死後相続して一時黒丸城主となり、家景の子敏景が文明三年一乗谷築城の際、叔父将景の菩提を弔うため当寺の住職盛舜上人をして再建せしめたもので、朝倉家からは田畑の寄附等厚い保護が加えられた。

現在安波賀中島に残る西山光照寺址は一部田園化しているが、面積田畑約五反歩・山林一町歩に亙り、本堂址と庫裡祉も残存し其間に累々たる墓石、無数の石仏が散在して往時の大寺の面影を止めている。藩政時代にも各藩主より御朱印を賜わり保護が加えられている。

松原　一乗引越し寺社

松原　一乗引越し寺社

藩政時代までは城下内外に多くの末寺を有して中山格の寺院であつた。城下内七か寺の末寺の他、窓安寺（武生）、光明寺（今立郡下川去村）西蓮寺（足羽町東大味）、最勝寺（一乗谷）、西得寺（丸岡町）、西照寺（丸岡町牛か島村）、智禅院（三国町）を有していた。城下内の七か寺の末寺の中西厳寺、全竜寺、妙貞寺、蓮台寺、宝蔵寺の五か寺は慶長年中光照寺と共に一乗谷より移転したものであり、西方寺は天正年間北庄にて創立され、藩政中期に光照寺末となつたもので、円流寺も最初は一向宗寺院であつたものが、藩政中期に同じく光照寺末寺に属したもので後者二ケ寺は直接一乗谷に関係がないため別稿に譲ることとする。

西厳寺（天台律宗延暦寺末元は光照寺末）―花月上町

創立寛仁年中（一〇一七）開基恵心僧都、後一乗谷ヨリ北庄へ移ル。〔拾遺録〕

全竜寺（元は光照寺末）―元花月上町に在り（廃寺）

一乗ヨリ引来ル〔拾遺録〕

元、当寺に石大仏観音あり、貞享三年一乗谷の土中より現われたる弘法大師作の伽羅木の霊像を腹籠りとして元禄年中建立せり、明治維新の当寺廃寺の際、光照寺に属し、現在の光照大仏の起源となつた。〔由緒書〕

妙貞寺（元は光照寺末）―元栄町に在り（廃寺）

一乗ヨリ来ル、当時寺無之。〔拾遺録〕

蓮台寺（元は光照寺末）―元氷川町に在り（廃寺）

一乗ヨリ来ル、当時地面計。〔拾遺録〕

右二か寺はいずれも享保之図に在り、安永四年の絵図には寺地は町屋となつている。（妙貞寺門前・蓮台寺門前）即ち藩政中期に廃寺となつた様である。

宝蔵寺（元は光照寺末）―元九十九町に在り（廃寺）

西山光照寺末寺鹿俣村ニ最勝寺宝蔵寺と申末寺弐ケ寺有之候、然処黄門様御代拙寺（光照寺）福井表江引越申候ニ付、右宝蔵寺茂本寺同様ニ朝倉家御由緒之寺院ニ而是も福井表へ引越申候節、鹿俣寺跡茂其儘被下置候、寺跡東西弐拾間計南北四拾間計ニ而凡弐百年近拙寺支配仕候処…〔鹿俣村最勝寺文書文化元年〕

慶長年間光照寺と共に一乗谷より北庄石場西源寺町に移つた宝蔵寺は其後明和七年（一七七〇）寺号寺院共に黄檗宗秀峰（周法）に売渡し天台宗宝蔵院は廃寺となつた。

西念寺　一乗山（天台宗真盛派武生引接寺末）―足羽上町

観世音菩薩者朝倉敏景御信仰ニシテ黒丸御在城ノ砌リ、或時八十娘君疱瘡御本服被レ為レ在因レ茲ニ一宇建立シテ御一族朝倉兵庫助景勝入道西念坊ニ御守リヲ被ニ仰付一西念堂逗観音ト申シ侍リ（中略）天正六年当所へ遷リ則チ西念寺ト名付（一乗谷の白椿谷に在つたと云う）〔観音由来記〕

延徳年中一乗ニテ伽監建立、三寸ノ観音アリ、三十石寄附セラル〔拾遺録〕

当寺は府中引接寺末寺であるが引接寺は長享二年（一四八八）に創立されているから、西念寺は文明年中まだ観音堂であつたものが延徳年中（一四八九）引接寺創立後一早く末寺となつて一寺庵を為したものと考えられる。

長運寺　紫雲山（天台宗真盛派坂本西教寺末）―照手下町

弘治三年（一五五七）一乗谷ニ極楽寺（西新町に寺址存す）ヲ開闢、朝倉氏滅亡後北庄へ移ル〔拾遺録〕

慶長北庄古図には極楽寺とあり、万治二年

の絵図には長運寺と改称されているから元和・寛永頃に極楽寺より長運寺と改称されたものか。

愛宕大権現社　別当天台宗愛宕山遊楽寺松玄院―元足羽山今の歴史館の地に在り（廃社）

本地勝軍地蔵、永正八年於二一乗谷一朝倉孫左衛門尉氏景建立、天正四年柴田勝家足羽山へ被二引移一寺領山林等寄附、今以右之通被二下置一候〔享保書上〕

文明年中一乗ニテ建立ナルニ天正四年勝家当山へ移シテ諸堂・仏閣・石垣・道等建立、寺領十石寄附。〔拾遺録〕慶長八年松平秀康より丹生郡向山村之内三十石寄附その後各藩主よりも禁制・朱印を受ける〔愛宕の松玄〕

開基朝倉孫九郎右衛門尉景儀（法名、遊楽寺殿柏庭宗悦大居士）文明十八年山城の愛宕山より慶俊僧都作の勝軍地蔵一基を勧請し、云々〔愛宕の松玄〕

「享保書上」に永正八年氏景建立とあるが此年は貞景の時代となる。朝倉系図には孝景が遊楽寺創建とあるから、これを正当とすれば永正十八年の誤伝かと考えられる。「愛宕の松玄」には文明十八年朝倉景儀勧請とあるが、これも年代的に矛盾する。即ち朝倉系図によれば文明十八年は氏景二十八才にして死去した年月で、氏景より六番目に当る景儀は当時二十才未満と考えられるからである。

以上の推考により遊楽寺創建は永正十八年とするのが妥当と考えられるのである。又創立個所であるが「享保書上」や「拾遺録」には一乗谷とあるのに対して「愛宕の松玄」の編者はこれを東郷赤坂村愛宕山を旧地としている。しかしここには元天神堂及び別当昌敕院のあつた所で文禄頃足羽山へ引移りその跡へ逆に慶長二年長谷川周防守重次が愛宕大権限を分祀し、現在も観音堂が存する〔東郷村誌前篇〕これによつて愛宕山と呼称される様になつたのであろうが、結局これが先の編者をして愛宕大権現の旧址と考えさせしめたものであろう。遊楽寺の旧址は現在一乗谷城戸ノ内に在る。

八幡社　別当天台宗勝軍山正顕寺松寿院―湊上町

当社は越前国主朝倉敏景一乗谷へ築城移住の砌、（文明年間）宇佐八幡宮の御分霊を一乗谷城戸の内へ勧請、（現在も社址存す）神田等を寄進して別当職を置き、爾来代々崇敬し来りしが、慶長六年五月藩祖秀康領内神社由緒御調の上北ノ庄に遷座、社地門前を八幡町と称す。慶長十九年二代藩主忠直大阪出陣の際武軍長久祈祷をなす。

宝永五年神社火災に罹りたるが、境内周囲人家稠密の為将来を慮り宝永六年冬七代藩主吉品御舟町の地に社地五百四十余坪寄進の上、神社再建、遷座の際神器等種々奉納あり。旧社地四百余坪は元八幡と称し明治七年迄境外所有地たり。代々の藩主崇敬厚く三代藩主忠昌社領として三ツ橋地方にて朱印地として七石を寄附明治維新に至る迄継続し文政元年の大火に類焼再建の際には藩主より白銀等を寄進せられたり。（その他福井市史下巻参照）

享保七年十二月十六日

御舟町八幡へ先達而宮地御寄附被仰付候処、表之方町屋之分も不残御寄附被成下候事〔御用留抜集二〕

心月寺　大円山（曹洞宗永平寺末）―玉井町

創立永享元庚酉年（一四二九）、開山桃庵禅洞和尚、開基朝倉孫左衛門尉敏景帰依にて坂井郡黒丸村に一宇建立、心月寺と号す。〔拾遺録〕

永享元年と云えば敏景二才の年に当り、年代的に矛盾する。越前名勝志に「朝倉教景

松原　一乗引越し寺社

松原　一乗引越し寺社

（敏景の祖父で黒丸五代城主）の菩提寺也」とあり、教景の法名を心月寺宗覚と称するから、開基は朝倉教景である。

文明三年敏景一乗谷築城の砌、同地に移転、天正元年朝倉氏滅亡後、九世観渓和尚丹生郡吉江村に移転、慶長八年十世儀天和尚代に藩祖秀康より除地判物等を賜い、現今の地に移れり。〔明細帳〕寺址は一乗谷西新町に存する。

又旧酒生村前波区にも心月寺跡と称する所がある。

慶相院　幸雲山（曹洞宗永春寺末）―元若松町に在り（現在永春寺に併合）

創立永禄三年（一五六〇）四月十一日、北庄城主朝倉土佐守景行帰依により、北庄永春寺四世宗岳和尚を招請し一乗谷に建立、慶長六年二世智山和尚現地に移る。戦災後、永春寺へ併合。

大乗院　一乗山（曹洞宗吉峰寺末）―清川下町

朝倉義景公の発願により一乗谷城下に延命地蔵を建立し、朝倉氏滅亡後、北庄に移り、三之丸の外今松原の有所に鎮座ありしを、慶長六年現地に移す。〔拾遺録・由来記〕

当院は元当山派修験宗なりしが、大正四年九月曹洞宗吉峰寺末となる。本尊地蔵菩薩は鼻欠地蔵と称し長一丈二尺の石像にして世に名高し。

足羽郡誌後編に「西新町坂尻に鼻欠地蔵と称する大石仏ありて胴部は天文年間の製作に系る、傍らに永禄十年の銘ある不動尊あり。」とあるが、これと関係があるか否か不明。

顕本寺　谷知山泰了院（法華宗京都本能寺末）―相生町

明応年中（一四九二）於二一乗一伽藍建立、天正五年柴田氏二十町四方の舗地（？）寄附サレ、今ノ孝顕寺ノ地へ移リ、慶長七年当地へ移ル、朝倉氏・柴田氏・丹羽氏・堀氏ノ判物アリ。〔拾遺録〕

一乗谷知村（現在城戸内に矢地谷あり）に建立するため山号を谷知山と云う。〔由緒記〕

妙観寺　松応山隆善院（法華宗京都妙蓮寺末）―緑町

創立文明十八年（一四八六）、開山日覧僧正北国下向の砌、国主朝倉氏景眼病に付、日覧に祈祷を被レ請即時に平癒、依レ之一乗谷に一宇建立、妙観寺と号す。朝倉氏滅亡後天正四年北庄現今の地に移る。明和三年及文政元年に大火に会う。〔明細帳・拾遺録〕

妙性寺　一乗山（日蓮宗京都妙顕寺末）―乾新町

創立延徳年中、（一四八九）開祖通観一乗谷に於て一宇建立し善行院と号す。慶長年中第五世日進上人北庄へ移り妙性寺と改号す。〔明細帳〕

最初城之橋寺町に在り、寛文九年大火後、外中島寺町に移り、元禄七年石場寺町善行寺断絶後、跡地に移り、更に昭和十年十一月現地に移転する。〔各城下絵図・御用留抜集〕

本妙寺　松竜山善光院（蓮宗京都本圀寺末）―照手上町

永正十七年（一五二〇）開山日視僧都一乗谷に建立、慶長六年寺町へ引、後長者町へ移り、又現地へ移ル、御代々御判物門札等アリ。〔拾遺録・明細帳〕一乗谷阿波賀に寺址存す。

常楽寺　妙覚山（日蓮宗京都本圀寺末）―元若松町に在り

一乗ニテ日従上人開基、慶長六年現地へ移ル。〔拾遺録〕

但し明細帳「創立文明二年、開祖権大僧

都善信院日従、丹生郡志津村に於て建立、慶長年中藩祖秀康入部の砌現今の地に移る」とあり、いずれが真なるか不明。

戦災後、先の本妙寺と合併し一寺となり、本楽寺と改称する。

妙経寺　本門山（法華宗京都妙満寺末）―相生町

本山廿二世大僧都寿量院日長上人、享禄元年頃（一五二八）一乗谷ニ於テ内藤氏ノ手引ヲ以テ一宇ノ庵ヲ結ビ、誦経他事ナシ、朝倉義景落城後壇頭内藤氏は天王村へ退被レ申、当寺ハ天正五年芝原氏柴田修理大夫助代奉行所へ願ヒ達ノ上、銭一貫文地面貰受今ノ運正寺地所へ移ル、渡辺三助・ヒモノ屋文尼一乗谷ヨリ引越壇家、其後慶長十二年頃運正寺建立ニ付キ、現地ニ移ル。〔寛政十年由緒書〕

日長上人一乗谷に一宇建立、妙満寺と号す。〔拾遺録〕

教徳寺　福聚山玄行院（日蓮宗京都妙覚寺末）―若松町

開祖経蔵院日心上人、天文六年（一五三七）一乗谷に於て建立、慶長年中（？）北庄現地に移る。〔拾遺録・明細帳〕

本誓寺　（真宗大谷派）―松本上町

永禄四年（一五六一）開基信明一乗谷に於て一宇建立、本光寺と称し、浄土宗なりしが、慶長年中本願寺教如上人に帰依し真宗となり、本誓寺と改称、東御堂寺内に移り塔頭となる。明治頃廃寺となつたが、大正三年四月江戸下町実語教会が寺号を譲り受け、後再び真宗となり昭和二十七年現地に移る。〔明細帳〕